

## 「ペトロ、幻を見る」

2016年05月11日

使徒言行録 10 章 9 節～16 節。翌日、この三人が旅をしてヤッファの町に近づいたころ、ペトロは祈るため屋上に上がった。昼の十二時ごろである。彼は空腹を覚え、何か食べたいと思った。人々が食事の準備をしているうちに、ペトロは我を忘れたようになり、天が開き、大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、地上に下りて来るのを見た。その中には、あらゆる獣、地を這うもの、空の鳥が入っていた。そして、「ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい」と言う声がした。しかし、ペトロは言った。「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は何一つ食べたことはありません。」すると、また声が聞こえてきた。「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない。」こういうことが三度あり、その入れ物は急に天に引き上げられた。

ローマの百人隊長コルネリウスは、幻でヤッファにいるペトロを招きなさいとのみ告げを受けた。彼は早速、ペトロを迎えるために三人の者を遣わした。三人は夜通し歩いて、ヤッファの町に近づいた頃、ペトロは祈るために屋上に上がった。時は昼の 12 時頃であった。彼は空腹を覚え、何か食べたいと思った。階下では、人々が昼食の準備をしていた。ペトロは我を忘れたような恍惚状態になり、幻を見た。まず「天が開き」と記されている。これは神の啓示を意味する表現である。大きな布のような入れ物が四隅を吊るされて、地上に降りて来る幻が見えた。入れ物の中には、あらゆる獣、地を這うもの、空の鳥が入っていた。そして「ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい」という声がした。彼は「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は何一つ食べたことはありません」と答えた。布の中には、獣、這うもの、鳥などの清い物と汚れた物が混在していたのである。旧約聖書のレビ記 11 章には、食べることのできる清い物と、食べてはいけない汚れた物が規定されている。11 章は「主はモーセとアロンにこう仰せになった。イスラエルの民に告げてこう言いなさい。地上のあらゆる動物のうちで、あなたたちの食べてよい生き物は」という言葉で始まり、動物、魚、鳥、昆虫、爬虫類に至るまで、細かく清浄規定が定められている。イスラエルの民はこの清浄規定を厳格に守ってきた。これを破りでもしたら、共同体から排除され、とても生きることはできなくなる。ペトロが「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は何一つ食べたことはありません」と答えたのは当然であった。すると、また声があり「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない」と聞こえた。このようなことが三度もあって、入れ物は急に天に引き上げられた。

マルコ福音書 7 章 18 節、19 節で、主イエスは「あなたがたも、そんなに物分かりが悪いのか。すべて外から人の体に入るものは、人を汚すことができないことが分からないのか。それは人の心の中に入るのではなく、腹の中に入り、そして外に出される。こうして、すべての食べ物は清められる」と語っている。この言葉は当時の律法解釈をひっくり返すような言葉である。ペトロが見た幻は、主イエスの言葉と重なる。

食べ物が制限されることは美味しい物が食べられずに気の毒に思うが、他人に害を与えることはない。イスラム教徒を招いた時、食事に関して気を使ったことがある。しかし、浄と不浄が人間に適応されると、清いとされた人が汚れたとされた人を差別、排除するようになり、大きな悲劇が起こる。この悲劇は計り難く大きい。コルネリウス物語は、主イエスの福音はこの悲劇を克服していることを示す出来事として書かれている。